



## それぞれの活動で、「振り返り」を！

自然学校最終日の退校式前のふれあいタイムや最終日前日のランタンファイヤーなどで、自然学校全体を振り返る学校が増えてきました。以前は、最終日前日の夜は定番のキャンプファイヤー、そして、最終日は大掃除で自然学校を終える学校が多かったと思います。5泊6日から4泊5日以上と実施期間の弾力化により、最終日の活動を有意義にさせようという学校（先生）の考え方で、個人選択活動や朝来山登山を取り入れている学校もありますが、そのような学校では、最終日が一層慌ただしくなり、十分に振り返りをする時間が確保されていない状況が生じてきています。

長期宿泊キャンプなどでは、最終日に全体を振り返らせるため、作文や感想文を書かせることがよくあります。キャンプ中であるので、それぞれの活動を、その時に感じたことを鮮明に覚えているので、普段作文を書くのを苦手に行っている子どもも、自分の感情を込めてすらすらと文章を書いています。それだけ、インパクトのある体験をしたからだと考えられます。これらは、社会教育の場であり、キャンプ終了後、作文や感想文を書いて集めることが難しいという物理的なことから、その時間を確保していると言えます。一方、自然学校は学校教育の場であり、自然学校から帰ってきてから学校で書かせることができるので、実施期間中に、そのような取組をする学校がないのかもしれませんが、また、普段学校で体験できないようなことを子どもたちにさせたいという思いから、作文を書くという時間が確保できないのかもしれませんが、1時間ぐらいなら何とか確保できそうだし、静まりかえった中で鉛筆の音だけが聞こえてくるような気がしてなりません。

「振り返り」は、全体を通してだけでなく、各活動後にも実施可能です。ただし、先ほど述べたように、それぞれに作文を書かせる必要はないのです。班で活動したなら、「話し合う場」を持ってください。活動を終わったら、それで終わりではなく、子どもたちの感想でいいので、その時間を取ってください。最後は、教師でまとめないといけないという考えの先生がおられますが、子どもの言葉で、子どもの感性のままでいいのです。子どもたちの「気づき」を大切にしてください。自然学校のねらいに大きく逸れてしないような場合や危険を伴う場合は、当然、教師の指導が必要ですが、それ以外は、子どもに任せてもいいと思います。教師の考えや願いから、大きく逸れることはないでしょう。

朝来山登山後の「振り返り」を実施した明石市立高丘東小学校の取組を紹介しますので、参考に見てみてください。

## 朝来山で見つけたものの発表会！



高丘東小学校の自然学校での目標は、「①最後まであきらめず、やりとげる喜びを味わおう。②支え合い、高め合う仲間づくりをしよう。③自然の素晴らしさを実感しよう。」の3点です。この目標を達成させるため、3日目の午前中に



「朝来山登山」、午後からは「朝来山で見つけたものの発表会」という一連の流れのあるプログラムを計画されました。

子どもたちのしおりには、「朝来山で見てきたもの、見つけてきたことを紹介しよう！」というテーマのもと、紹介する場所を記入して、そのスケッチをするように工夫されています。

薄明るい6時に出発して、7時に雲海展望台で朝食を取り、各班で下山するタイムスケジュールとなっています。朝来山登山中や下山後の施設内で、事前に示された条件に合う自然物やお気に入りの風景、友だちに対する温かい言葉がけなどを宝物として収集する活動を行いました。

その振り返り活動として、「朝来山で見つけたもの発表会」が実施されました。おそらく、総合的な学習の時間などでも、このような発表は慣れているのでしょうか。すらすらと、役割分担をして画用紙にまとめていました。そして、実物を見せて発表する班やクイズ形式で発表する班、デジタルカメラで納めたものをプロジェクターで投影して発表する班など、様々な形式で発表していました。このように、工夫のある発表となり、お互いの思いを交流・共有することができた取組となっていました。

発表会を通して、新たな発見をするとともに自然の素晴らしさを実感し、また、友だちと励ましながら登り、友だちの優しさに気づくことができた朝来山登山を振り返ることができました。



この一連の活動は、高丘東小学校自然学校の目標を達成させるための一つの手段となっています。全ての活動で、このような振り返りは無理ですが、特に力を入れたい、子どもたちに考えさせたい、時間をかけて取り組ませたい活動については、子どもたちの変容を期待する上でも、プログラムの中に位置づける意義は大きいと思います。

実施報告書にも、「振り返り」についての意見が書かれています。

- ・子どもたちの事後指導から恵まれた環境で体験活動ができたことが明らかになり、振り返りを通じて、**自ら考え行動する態度を身に付ける**ことができ、個々のニーズにあった自然学校を実施することができた。

また、先生方の「子どもたちの変容」を意識した取組でも、「振り返り」の意義がよく分かります。

まず一つ目は、先生方が毎日子どもたちの「自然学校振り返りノート」に一言赤ペンを入れることで、翌日以降の活動意欲が高まり、子どもたちの変容につながったという事例が報告されています。そして二つ目は、毎日の自然学校での振り返りの際に子どもたちから出た反省点をボードに書き込み、そのボードを活動場所に常に持ち回することで、その反省点を意識させて、子どもたちに「自覚と責任」を持たせようとした事例もありました。

このように、先生方のちょっとした工夫や仕掛けにより、自然学校がさらに充実したものとなり、「生きる力を育む体験活動」へとつながるものであると考えています。

#### 編集後記

今回は、各活動後の「振り返り」の意義を再確認して頂きたく、「指導課だより」を作成しました。

(文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也)